

血友病／HIV／HCV重感染患者の肝細胞癌に対する重粒子線治療の安全性・有効性試験

研究分担者 中野 隆史
群馬大学重粒子線医学研究センター教授

研究要旨：血友病／HIV／HCV 共感染の肝細胞癌に対する重粒子線治療の有効性と安全性を調べるためプロトコールを作成した。これまで2例が登録され、プロトコールに則り治療を遂行できた。重篤な有害事象はなく、初期の安全性が確認できた。

A. 研究目的

重粒子線治療は線量集中性と生物効果に優れる。そこで、切除やラジオ波困難例で血友病／HIV／HCV共感染の肝細胞癌に対して有効性と安全性を確認する。

B. 研究方法

「血友病／HIV／HCV共感染の肝細胞癌に対する重粒子線治療の有効性・安全性試験」の研究計画書を作成した。患者リクルートはエイズ治療・研究開発センターがコーディネートした。

（倫理面への配慮）

本研究は、群馬大学の倫理審査委員会の承認を得て行われている。また、研究担当者は被験者に対して、被験者が本研究に参加する前に説明文書を使用して十分に説明した後、同意文書を用いて研究参加の同意を本人から得ることとした。

C. 研究結果

プロトコールの適格性を満たすことを確認し、2例を登録した。あらかじめ、院内の運用を血液内科、重粒子線医学センター、看護部、事務部門でよく確認し、治療用固定具作成、治療計画CT撮影を行った。重粒子線治療は2例ともに予定通り完遂できた。Grade 3以上の急性期有害反応は認められなかった。

D. 考察

出血傾向への配慮など併存疾患含めて多診療科、多職種による連携が重要と考えられたが、定形的に通常の重粒子線治療を実施可能であった。

E. 結論

血友病／HIV／HCV共感染の肝細胞癌に対する重粒子線治療の有効性と安全性を調べるための研究プロトコールを作成した。これまで2例が登録され、プロトコール治療を遂行できた。重篤な有害事象はなく、初期の安全性が確認できた。引き続き、症例の集積を続ける予定である。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

Shibuya K, Ohno T, Nakano T. et al. A feasibility study of high-dose hypofractionated carbon ion radiation therapy using four fractions for localized hepatocellular carcinoma measuring 3 cm or larger. *Radiother Oncol* 132: 230-235, 2019.